

令和7年度 学校評価実施報告書

学校名 (安祥寺中 学校)

教育目標	
「気づきと応答 向き合うことを培う」 最高経営理念として 「生きる力（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を育み、自らの将来を切り拓き、次代を創造する生徒を育成する」	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
	<p>* ICTを効果的に活用し、探究活動の手法を取り入れた授業に、総合的な学習の時間を軸として取り組むことができた。学力の向上については、一定の成果が見られるものの、学年によって差異があり、十分に目標を達成しているとは言えない。授業の改善や家庭学習習慣の定着を目指した取組が引き続き求められる。</p> <p>* 学校行事や生徒会活動等に主体的に取り組む生徒の姿が見られ、自治意識を高める様々な新しい取組が生徒からの提案によって始めることができた。引き続き、生徒会を中心とした生徒の自主的な活動の充実を図る。</p> <p>* 不登校の生徒が別室に登校できる場所「My Place」は、子ども支援コーディネーターと教職員で全校体制として取り組み、不登校の生徒に一定の成果を上げることができているが、利用生徒の増加に伴い、多様な生徒の個々の事情やニーズに対応することについての課題が生じてきている。学力保障に向けての取組等さらなる発展が必要である。また、不登校傾向の生徒は増加の傾向にあるので、心に悩みを抱える生徒に寄り添い、支える取組が引き続き求められる。</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	「My Place」の利用について、個々の生徒に応じた個別の対応や学力保証など、効果的な運用ができるように、学校の教職員だけではなく外部からのスタッフの力も活用しながら行ってほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月30日	学校運営協議会
最終評価	令和8年2月26日	学校運営協議会

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標
①「わかる喜びと学ぶ楽しさ」を実感できる授業を実践し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、学びへの主体性を高める。

- ② 意図的・計画的に言語活動を充実し、思考力・判断力・表現力等の知識を活用させ、学びに向かう力や人間性を育成する。
- ③ GIGA スクール構想の発展を意識した教育活動を実践していく。

具体的な取組

- ◇PDC Aサイクルを生かしたカリキュラム・マネジメントを実践し、関連単元配列表の見直しなど年間計画に基づいた評価時期までの学習計画を明確にし、「つきたい力」を確実に身につけさせる授業を展開する。
- ◇授業では「本時の目標」を確認し、生徒同士が協調的に行う「まとめ・振り返り」を取り入れ、理解と定着を徹底する。
- ◇探究活動の手法を取り入れ、授業課題に対して探求心を持って取り組めるよう誘導し、生徒の言語活動が中心となるような授業、深い学びに向かう授業を行う。
- ◇基礎基本の定着を図るため、ICT 機器も活用しながら、目指した家庭学習課題を教科・学年で計画的に実施するとともに、授業につながる探究的な家庭学習課題も適宜設定し、家庭学習の習慣化を図り、学びへの主体性を育成する。
- ☆入学時よりも必ず力をつけて卒業させる。指導と評価→結果に責任をもつ。
- ◇知的好奇心を刺激するよう発問を工夫し、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的な学びを重視し、思考・発信型の授業を行う。
- ◇「深い学び」につながる単元や題材等の構成をデザインし、生徒同士が協働的に行う「協議や交流」「まとめ・振り返り」を取り入れ、他者の考えや思いを参考にし、自己の考えや思いを者に伝える力を育成する。
- ◇キャリア教育の視点から全教育活動を関連づけるとともに、SDG sの視点を取り入れ、「総合的な学習の時間」における探究的な学びを重視する。
- ☆主体的・対話的で深い学びを実現するため、教科会等で質の高い授業への創意工夫を進める。
- ◇G I G Aスクール構想を更に推進し、タブレット端末を活用した家庭学習課題の提示やI C T機器の効果的な活用を図る。図書室を活用した授業も年1回以上行い、調べ学習等、情報収集や活用能力を高める。
- ◇デジタルドリルや採点補助ソフトの活用など GIGA スクール構想の充実期を意識した教育活動を実践していく
- ☆I C T機器を活用した研究授業や公開授業などにより研修を重ねていく。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学習確認プログラム、全国学力・学習状況調査の分析結果
 - ・学校評価アンケート（生徒）の結果
- ① 授業では、自分の意見や考えについて話したり発表したりしている。
 - ② 授業では、周りの人の意見や考えを聴いたり、協力して活動できている。
 - ③ 授業では、I C T機器やG I G A端末を効果的に使用する場面が設けられている。
 - ④ 総合的な学習の時間には、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表・表現するなどの学習活動に取り組んでいる。
 - ⑤ 将来の夢や目標をもって学習していますか。
 - ⑥ 授業の予習・復習や定期テスト前など、家庭学習にしっかり取り組んでいる。

・学校評価アンケート（保護者）

- ① 学校は、生徒が「自分で考える」場面や「自分の考え」について発表する・話すことができる授業をしている。
- ② 学校は、生徒が他者の意見や考えを聴いたり、協力して活動できる授業をしている。
- ③ 学校は、ICT機器やGIGA端末を効果的に使用した授業や教育活動を実践している。
- ④ 学校は、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する総合的な学習の時間に取り組んでいる。
- ⑤ 学校は、子どもが夢や目標をもって活動できるような進路指導やキャリア教育に取り組んでいる。
- ⑥ 学校は、家庭学習の大切さや学習の方法について指導している。

・全国学力・学習状況調査（生徒質問紙）

- ① 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。
- ② 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
- ③ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

中間評価

各種指標結果

・学校評価アンケート（前期：生徒）

- ⑮ 授業では、自分の意見や考えについて話したり発表したりしている。
そう思う…30% 大体そう思う…42% あまりそう思わない…18% そう思わない…10%
- ⑯ 授業では、周りの人の意見や考えを聴いたり、協力して活動できている。
そう思う…47% 大体そう思う…48% あまりそう思わない…4% そう思わない…1.8%
- ⑰ 授業では、ICT機器やGIGA端末を効果的に使用する場面が設けられている。
そう思う…59% 大体そう思う…39% あまりそう思わない…1.8% そう思わない…0.4%
- ⑱ 総合的な学習の時間には、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表・表現するなどの学習活動に取り組んでいる。
そう思う…38% 大体そう思う…49% あまりそう思わない…10% そう思わない…3%
- ⑲ 将来の夢や目標をもって学習していますか。
そう思う…40% 大体そう思う…31% あまりそう思わない…22% そう思わない…7%
- ⑳ 授業の予習・復習や定期テスト前など、家庭学習にしっかり取り組んでいる。
そう思う…35% 大体そう思う…41% あまりそう思わない…20% そう思わない…4%

・学校評価アンケート（前期：保護者）

- ⑮ 学校は、生徒が「自分で考える」場面や「自分の考え」について発表する・話すことができる授業をしている。
そう思う…20% 大体そう思う…55% あまりそう思わない…4% そう思わない…0%
わからない…20%

⑩ 学校は、生徒が他者の意見や考えを聴いたり、協力して活動できる授業をしている。

そう思う…17% 大体そう思う…57% あまりそう思わない…5% そう思わない…0.8%
わからない…25%

⑪ 学校は、ICT機器やGIGA端末を効果的に使用した授業や教育活動を実践している。

そう思う…18% 大体そう思う…62% あまりそう思わない…4% そう思わない…0%
わからない…16%

⑫ 学校は、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する総合的な学習の時間に取り組んでいる。

そう思う…10% 大体そう思う…53% あまりそう思わない…8% そう思わない…0.8%
わからない…29%

⑬ 学校は、子どもが夢や目標をもって活動できるような進路指導やキャリア教育に取り組んでいる。

そう思う…12% 大体そう思う…50% あまりそう思わない…12% そう思わない…0.8%
わからない…25%

⑭ 学校は、家庭学習の大切さや学習の方法について指導している。

そう思う…10% 大体そう思う…44% あまりそう思わない…21% そう思わない…3%
わからない…22%

・全国学力・学習状況調査（生徒質問紙）

① 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

「ほぼ毎日」(22.2%) 全国 -7.3ポイント

② 1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

「発表していた」(14.1%) 全国 -4.8ポイント

③ 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

「当てはまる」(14.1%) 全国 -9.3ポイント

④ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

「当てはまる」(17.2%) 全国 -10.2ポイント

⑤ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

「1時間以上」(18.2%) 全国 +9.6ポイント

⑥ 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

「当てはまる」(50.5%) 全国 +5.0ポイント

・全国学力・学習状況調査

国語、数学、理科 IRTスコアともに全国平均を上回った。

・学習確認プログラム（3年1st）指数

社会、数学、英語、総合で全市平均をわずかに下回った。国語は、全市平均をわずかに上回り、理科は全市平均であった。

・学習確認プログラム（2年Pre1）指数

国語、数学で全市平均を上回り、総合、社会、理科、英語で全市平均を下回った。特に英語における差が大きい結果となった。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・授業の中で「自分で考える」場面や「自分の考え」について発表する・話すことができる授業について、7割を超える生徒が肯定的な回答をしている。「総合的な学習の時間には、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表・表現するなどの学習活動に取り組んでいる。」という問いに対しては、85%を超える生徒が肯定的な回答をしている。また、全国学力・学習状況調査の「生徒質問紙」の「周りの人の意見や考えを聴いたり、協力して活動できている」という問いに対しては、全国平均を上回る5割を超える生徒が「当てはまる」と回答している。主体的で対話的な深い学び、協働的な学びを目指した授業が定着していると考えられる。
- ・授業におけるタブレット端末等のICT機器の活用に関する質問に対しては、学校評価アンケートでは、生徒の98%が肯定的な回答をしているが、3年生の全国学力・学習状況調査の「生徒質問紙」では、令和4年度以降、肯定的な回答をした生徒が初めて全国平均を下回った。2ndGIGA 端末として iPad の利用が開始されたので、新たな端末の強みを生かした授業づくりに取り組んでいかなければならない。
- ・生徒の学力については、2年生が学習確認プログラムにおいて、国語と数学において京都市の平均を上回ったが、社会、理科、英語、総合で下回る結果となった。前回の「1年Bac2」と比較すると、数学は大きく伸びているが、他の4教科はほぼ変わらない。3年生は、全国学力・学習状況調査については、国語・数学・理科のすべての教科で全国平均を上回る結果となった。学習確認プログラムについては、国語以外の教科で京都市の平均を下回っているが、前回の「2年Pre3」と比較すると、すべての教科で伸びている。
- ・3年生の全国学力・学習状況調査「生徒質問紙」において、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」という問いに対して、「1時間以上」と回答した生徒が全国平均を上回った。図書推進の取組の成果であると考えられる。
- ・各学年とも、定期テスト前や夏休みの学習会に多くの生徒が積極的に参加した。
- ・家庭学習への意識や取組は3学年とも定着しつつあるが、個人差も大きく家庭学習の在り方に課題があるケースもある。
- ・進路に向けての取組として、2年生で高校訪問、3年生で高校の先生による出前授業を行った。
- ・毎週「進路だより」を発行、生徒・保護者への周知とともに、教職員の研修にも効果をあげている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・学びへの主体性を高めるために、ICTの活用や探究活動を積極的に取り入れた授業づくりに引き続き取り組む。

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善と指導と評価の一体化を目指した教科会と校内研修の活性化を図る。特に11月に予定している校内研究授業週間が有効な研修の場となるように綿密に計画する。 ・教職員の資質・能力の向上のために、校外の研修等への参加の機会を増やすとともに、自己研鑽の意識向上を図る。 ・テスト前学習会や未来スタディ・サポート事業を活用した放課後学習を引き続き実施する。 ・家庭学習の習慣化を図るために、ICTを活用した課題や授業につながる探究的な家庭学習課題を教科・学年で計画的に実施するとともに、家庭学習への取り組み方についての指導に引き続き取り組む。 ・学習意欲を高め、進路展望をもって学習に取り組めるように、1年生から進路についての学活や取組を引き続き計画的に進めていくとともに、保護者への周知の仕方や教職員研修のあり方も工夫していく。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラムの結果分析 ・学校評価アンケート
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>ICT機器と学力との関連について様々な意見が言われている中、効果的な使い方を各教科で考えていかなければならない。そのためには、教職員の研修と自己研鑽が必要である。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート (後期：生徒) <ul style="list-style-type: none"> ⑮ 授業では、自分の意見や考えについて話したり発表したりしている。 そう思う…29% 大体そう思う…42% あまりそう思わない…24% そう思わない…6% ⑯ 授業では、周りの人の意見や考えを聴いたり、協力して活動できている。 そう思う…43% 大体そう思う…50% あまりそう思わない…5% そう思わない…0.2% ⑰ 授業では、ICT機器やGIGA端末を効果的に使用する場面が設けられている。 そう思う…63% 大体そう思う…33% あまりそう思わない…0.3% そう思わない…0.2% ⑱ 総合的な学習の時間には、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表・表現するなどの学習活動に取り組んでいる。 そう思う…38% 大体そう思う…38% あまりそう思わない…18% そう思わない…6% ⑲ 将来の夢や目標をもって学習していますか。 そう思う…35% 大体そう思う…34% あまりそう思わない…24% そう思わない…7% ⑳ 授業の予習・復習や定期テスト前など、家庭学習にしっかり取り組んでいる。 そう思う…38% 大体そう思う…38% あまりそう思わない…18% そう思わない…6% ・学校評価アンケート (後期：保護者) <ul style="list-style-type: none"> ⑮ 学校は、生徒が「自分で考える」場面や「自分の考え」について発表する・話すことができる授業をしている。 そう思う…23% 大体そう思う…61% あまりそう思わない…3.5% そう思わない…0.1% わからない…17%
--	---

- ⑯ 学校は、生徒が他者の意見や考えを聴いたり、協力して活動できる授業をしている。
 そう思う…20% 大体そう思う…56% あまりそう思わない…6% そう思わない…0.1%
 わからない…17%
- ⑰ 学校は、ICT機器やGIGA端末を効果的に使用した授業や教育活動を実践している。
 そう思う…27% 大体そう思う…57% あまりそう思わない…4% そう思わない…0.1%
 わからない…9%
- ⑱ 学校は、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する総合的な学習の時間に取り組んでいる。
 そう思う…16% 大体そう思う…54% あまりそう思わない…10% そう思わない…0.2%
 わからない…19%
- ⑲ 学校は、子どもが夢や目標をもって活動できるような進路指導やキャリア教育に取り組んでいる。
 そう思う…21% 大体そう思う…54% あまりそう思わない…6% そう思わない…3.5%
 わからない…16%
- ⑳ 学校は、家庭学習の大切さや学習の方法について指導している。
 そう思う…13% 大体そう思う…60% あまりそう思わない…12% そう思わない…5%
 わからない…10%

・学習確認プログラム（3年2nd）指数

国語、社会で全市平均を上回ったが、総合、数学、英語で全市平均を下回った。特に数学と英語における差が大きい結果となった。

・学習確認プログラム（2年Pre2）指数

社会、数学で全市平均を上回ったが、総合、国語、理科、英語で全市平均を下回った。特に理科と英語における差が大きい結果となった。

・学習確認プログラム（1年Bac1）指数

国語、数学、理科が全市平均を上回り、社会、英語で全市平均をわずかに下回った。総合は全市平均であった。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・授業の中での自分で考えたり考えを話す場面について、前期のアンケートと同様に7割を超える生徒が「設けられている」と感じている。
- ・生徒の学力については、1年生は京都市の平均とほぼ同等であるが、2年生については理科・英語、3年生については数学・英語で平均を下回る。
- ・全学年でテスト前の学習会を実施することができたが、3年生では、受験対策としてそれ以外の期間での学習会（未来スタディ・サポート事業を活用した放課後学習）を週1回実施し、多くの生徒が参加した。
- ・総合的な学習の時間では、京都市の「総合的な活動の時間教育研究指定校」を受け、各学年とも生徒同士が協働的に行う「協議や交流」「まとめ・振り返り」を取り入れた探究活動に取り組み、自己の考えや思いを者に伝える発表会を行うことができた。

- ・ 1年生の総合的な学習の時間では、「安中 meetus」と題して、京都市で現在進行している「meetus～山科・醍醐地域活性化プロジェクト～」に中学生の意見を取り入れてもらえるようなプロジェクトについて考え、山科区役所の方に向けてプレゼンテーションを行った。
- ・ 2年生の総合的な学習の時間では、「高等学校訪問」、「職業講話」、「生き方探究チャレンジ体験」等を通して、自分の将来やどんな大人になりたいか、どんな生き方をしたいのかについて考え、まとめたことをポスターセッションで発表した。
- ・ 3年生の総合的な学習の時間では、修学旅行を通して「平和」や「戦争」について学習し考えたことを「学年劇」「ポスター」という形で発表した。
- ・ 英語科では、1・2年生および2・3年生の授業において、合同でプレゼンテーションを行い、それぞれのテーマについて自分で作成したスライドを使って英語で一人ずつ発表した。
- ・ 校内研修や11月に実施した校内研究授業週間は、授業づくりや授業改善に向けての有意義な研修の場となった。
- ・ 1・2年生でも進路についての学活や取組を計画的に実施することができた。進路保護者会を全学年の保護者を対象とし、年間2回（5月・9月）実施した。毎週「進路だより」を発行し、生徒・保護者への周知とともに、教職員の研修にも効果をあげた。
- ・ 生徒の学びへの主体性を高め、学びに向かう力や人間性を育成するためには、授業改善と取組の充実に向けて、教職員の資質・能力の向上が必要である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 学びへの主体性を高めるために、ICTの活用や探究活動、自分の考えを発表する機会を積極的に取り入れた授業づくりに引き続き取り組む。
- ・ 授業改善と指導と評価の一体化を目指した教科会と校内研修の活性化を図る。
- ・ 総合的な学習の時間における探究的な学びのサイクルを回す3年間の年間計画の作成と整理を行う。
- ・ カリキュラム・マネジメントの視点をもって、各教科および道徳や特別活動、総合的な学習の時間を関連付けた教科横断的な教育課程を編成する。
- ・ 教職員の資質・能力の向上のために、校外の研修等への参加の機会を増やすとともに、自己研鑽の意識向上を図る。
- ・ テスト前学習会や未来スタディ・サポート事業を活用した放課後学習を引き続き実施する。
- ・ 家庭学習の習慣化を図るために、ICTを活用した課題や授業につながる探究的な家庭学習課題を教科・学年で計画的に実施する。生徒が将来、自立して学び続けるために必要不可欠である「自学自習の習慣」を身に付けることができる家庭学習への取り組み方（予習・復習の仕方、ノートのとめ方等）について指導する。
- ・ 学習意欲を高め、進路展望をもって学習に取り組めるように、1年生から進路についての学活や取組、保護者への情報発信や教職員研修について引き続き計画的に進めていく。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

地域とつながり、地域の活性化につながるような地域に根差した探究活動の企画に期待する。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

自己肯定感や自己有用感等の自尊感情を高める段組を推進し、支え合い高め合う集団を築く。

具体的な取組

- ◇あいさつや声かけを徹底し、生徒との信頼関係を築き、規律ある学校にする。
- ◇常に目配り・心配りを心がけ、見逃しのない指導・機動力ある組織的な指導を行う。(気づき)
- ◇生徒会活動や学級活動において生徒の自治意識を高める取組を推進する。
- ◇道徳の授業を要とした道徳教育を充実する。
- ☆主体性、自主・自律、向上心を育む指導を推進する。

- ◇授業や学活では必ず一人一人全員への声かけと一人一人全員の発話を引き出すことを心がける。
- ◇良さを伸ばし、課題に向き合う姿を支援する。
- ◇個で取り組む場面、仲間と協力する場面、それぞれの適切な指導と評価を行い、達成感を味わわせるとともにさらなる改善向上への支援を行う。
- ◇不登校生徒や困りをかかえた生徒に対して計画的な支援を行う。
- ☆「ほめる」ことを大切にし、「向上心」を育てる教育を実践する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・クラスマネージメントシート
- ・全国学力・学習状況調査(生徒質問紙)
 - ① 自分には、よいところがあると思いますか。
 - ② 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
- ・学校評価アンケート(生徒)
 - ① 学校生活は、楽しく充実している。
 - ② 仲間や周りの人の気持ちや立場を考えた言動を心掛けている。
 - ③ 道徳の時間には、自分のことを振り返ったり仲間の意見を聴いたりして、深く考えることができている。
- ・学校評価アンケート(保護者)
 - ① 学校は、生徒がやりがいを感じられる活動を設定している。
 - ② 学校は、他者への思いやりの大切さや人権について生徒に指導している。
 - ③ 学校は、「よりよく生きるための基盤. となる道徳性を養う」道徳の授業に取り組んでいる。

中間評価

各種指標結果

- ・学校評価アンケート(前期:生徒)
 - ② 学校生活は、楽しく充実している。
そう思う…61% 大体そう思う…35% あまりそう思わない…3% そう思わない…1%
 - ⑩ 仲間や周りの人の気持ちや立場を考えた言動を心掛けている。
そう思う…47% 大体そう思う…50.% あまりそう思わない…1% そう思わない…2%
 - ⑬ 道徳の時間には、自分のことを振り返ったり仲間の意見を聴いたりして、深く考えることができている。
そう思う…48% 大体そう思う…47% あまりそう思わない…3% そう思わない…2%

・学校評価アンケート（前期：保護者）

- ③ 学校は、生徒がやりがいを感じられる活動を設定している。
そう思う…21% 大体そう思う…65% あまりそう思わない…6% そう思わない…0%
わからない…9%
- ⑩ 学校は、他者への思いやりの大切さや人権について生徒に指導している。
そう思う…18% 大体そう思う…58% あまりそう思わない…3. % そう思わない…0.8%
わからない…20%
- ⑬ 学校は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」道徳の授業に取り組んでいる。。
そう思う…13% 大体そう思う…56% あまりそう思わない…5% そう思わない…0.8%
わからない…25%

・全国学力・学習状況調査（生徒質問紙）

- ① 自分には、よいところがあると思いますか。
「当てはまる」(41.4%) 全国 +0.7 ポイント 「どちらかといえば当てはまる」 44.4%
- ② 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
「当てはまる」(52.5%) 全国 +5.9 ポイント 「どちらかといえば当てはまる」 40.4%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・学校生活に対して、97%の生徒が楽しく充実していると感じていて、保護者もそのように感じている。
- ・「仲間や周りの人の気持ちや立場を考えた言動を心掛けている。」という問いに対して 97%の生徒が肯定的な回答をしている。
- ・道徳の時間について「自分のことを振り返り、深く考えることができている」との問いについても、95%の生徒が肯定的な回答をしている。道徳の時間については、学級担任だけではなく学年の全員の教員によるローテーション道徳や学年道徳も計画的に実施しており、成果を上げている。
- ・「しなやか道徳教育」の研究の一環として、異学年集団によるディベート形式の道徳授業を行った。
- ・3年生では、「自分によいところがある」という質問に対して肯定的な回答をした生徒が8割を超え、昨年に続き全国平均を上回り、多くの生徒が自己肯定感をもっているという結果が出た。教師が自分のよいところを認めてくれていると感じている生徒は9割を超え、こちらも昨年に続き全国平均を上回っていることが大きく関係していると考えられる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ほとんどの生徒が肯定的な回答をしているが、そうでない少数の生徒にも目を向け、すべての生徒が安心して楽しく通える学校作りに努める。
- ・昨年度に続き、生徒の自己肯定感が高い結果が出たが、これを維持し、さらに高めていくために、生徒自身が満足し、教師だけでなく生徒同士で認め合う機会や取組を充実させる。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・学校評価アンケート
- ・クラスマネージメントシート

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校で取り組んでいることの成果が、学校行事における生徒の姿に表れていると感じる。</p>
---------	--

最終評価

自己評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート（後期：生徒） <ul style="list-style-type: none"> ② 学校生活は、楽しく充実している。 そう思う…61% 大体そう思う…34% あまりそう思わない…4% そう思わない…0.8% ⑩ 仲間や周りの人の気持ちや立場を考えた言動を心掛けている。 そう思う…48% 大体そう思う…50% あまりそう思わない…1.6% そう思わない…1.2% ⑬ 道徳の時間には、自分のことを振り返ったり仲間の意見を聴いたりして、深く考えることができている。 そう思う…48% 大体そう思う…48% あまりそう思わない…2% そう思わない…2% ・学校評価アンケート（後期：保護者） <ul style="list-style-type: none"> ③ 学校は、生徒がやりがいを感じられる活動を設定している。 そう思う…25% 大体そう思う…77% あまりそう思わない…4% そう思わない…2% わからない…2% ⑩ 学校は、他者への思いやりの大切さや人権について生徒に指導している。 そう思う…26% 大体そう思う…58% あまりそう思わない…2% そう思わない…3% わからない…11% ⑬ 学校は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」道徳の授業に取り組んでいる。 そう思う…17% 大体そう思う…62% あまりそう思わない…6% そう思わない…2% わからない…14% ・クラスマネージメントシート（10月：全校生徒を対象に実施） <p>「クラスのまとまり」「クラスのけじめ」「クラスのやすらぎ」「友達とのつながり」「担任とのつながり」「自己開示」の6つの領域のスコアをもとに出した「学級認知」では、育成学級と普通学級全11クラス中7クラスで「クラスの雰囲気は子どもたちにとってとても居心地のよいものとなっているようです。」という結果が出た。残りの4クラスについては、「クラスの雰囲気は子どもたちにとって居心地のよいものとなっているようです。」が1クラス、「クラスの雰囲気は比較的落ち着いているようです。」が1クラス、「クラスの雰囲気は悪くないようです。」が2クラスという結果であった。</p> <p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳は、全学年でローテーション道徳を行うことで、学級担任だけではなく学年すべての教員が関わり充実した取組ができた。 ・学年道徳を2年生で実施できたが、1・3年生では実施できなかった。
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・「しなやか道德教育」の研究では、小学校と連携して、異学年集団によるディベート形式の道德授業を行った。 ・ほとんどの生徒が肯定的な回答をしており、否定的な回答をする生徒の数も含めて前期とほぼ変わらない。 ・保護者の回答で「わからない」と回答している数が前期と比較して大幅に減少しており、学校の取組が浸透してきている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年道德や全校道德を実施する。 ・「しなやか道德」（京都市教育委員会研究指定）での研究成果を生かして、道德教育のさらなる充実を図る。 ・それぞれの個性を大切に、一人一人の生徒・保護者と丁寧に向き合うとともに、生徒が自己肯定感を高める取組を充実させることで、すべての生徒が安心して楽しく通える学校作りに努める。 ・学級・学年の枠を超えた生徒指導に関する情報共有と校内研修を行う。 ・教育相談・クラスマネジメントシートを活用した学級経営を行うための校内研修を実施する。
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>生徒を取り巻く SNS に起因する問題行動や犯罪被害が顕著となる中、情報モラル教育の充実を望む。</p>

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学習環境を整備し、いつも美しく、安全で安心な学校づくりを進める。 ② 心身の健康を維持し、明るく生き生きとした学校生活を送らせる。
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇一斉に定期点検などを行い、安全を徹底し、創意工夫ある教育活動を推進する。 ◇校内外の清掃活動を徹底する。 ◇タイムリーかつ創意工夫ある掲示物を掲示する。 ◇学校営繕ならびに安全管理、救命講習等、平常時の危機管理を徹底する。 ◇防災訓練等で「もしも」に対する備えを行う。 ☆「命を守りきる」「事故・けがの未然防止」を常に念頭に置き、校内の点検を随時行う。 ◇生活習慣の確立を支援し、健康を保持・増進する意識と態度を育てる。 ◇体育的行事や部活動の充実を図り、体力の向上を推進する。 ◇性に関して適切な行動選択ができる性教育を行う。 ◇飲酒・喫煙・薬物乱用の有害性、危険性について正しい知識を身につけさせる。 ☆<u>自他の命を大切に</u>する生徒を育てる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・保健室利用状況
- ・部活動入部状況
- ・学校評価アンケート（生徒）
 - ① 部活動に意欲的に参加し、充実した活動をしている。
- ・学校評価アンケート（保護者）
 - ① 学校は、部活動を熱心に指導している。

中間評価

各種指標結果

- ・保健室利用状況（4月～7月）
 - 【外科的内容】 116件
 - 1年生 31件 2年生 43件 3年生 42件
 - 【内科的内容】 177件
 - 1年生 58件 2年生 62件 3年生 57件
 - 【その他】 189件
 - 1年生 20件 2年生 30件 3年生 139件
- ・部活動入部状況
 - 入部率 77.6%（内訳：体育系 62.7%、文科系 14.9%）
 - 1年 男子 81.0% 女子 90.4% 2年 男子 60.0% 女子 78.9%
 - 3年 男子 70.5% 女子 87.1%
- ・学校評価アンケート（前期：生徒）
 - ⑧ 部活動に意欲的に参加し、充実した活動をしている。
 - そう思う…48% 大体そう思う…32.0% あまりそう思わない…7% そう思わない…12%
- ・学校評価アンケート（前期：保護者）
 - ⑧ 学校は、部活動を熱心に指導している。
 - そう思う…25% 大体そう思う…47% あまりそう思わない…11% そう思わない…4%
 - わからない…13%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・保健室の来室状況については、昨年と比較して外科的なものは減少したが、内科的・その他の理由による来室は、生徒数が増加したことを考慮しても大幅に増えている。特に3年生女子の心理的要因によるものが多くを占めており、同じ生徒が繰り返し利用している状況にある。
- ・大きな事故やけが、深刻な体調不良による救急搬送はなかった。
- ・不登校の生徒が別室に登校できる場所「My Place」は、子ども支援コーディネーターと教職員で連携して全校体制としての取組が定着してきたが、利用生徒の増加に伴い、多様な生徒の個々の事情やニーズに対応することについての課題が生じてきた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の入部率は、1年生が多く入部したことにより、昨年度よりも若干上がったが、昨年続き8割を下回った。部活動ガイドラインや地域移行への流れの影響であると考え。部活動に入部している生徒については、意欲的に活動していて、夏季大会等で成果が出た部活動もある。 ・生徒会の取組と連携して、生活習慣の確立に向けた啓発活動に取り組むことができた。 ・避難訓練を4月に実施することができた。 ・1年生で非行防止教室を6月に実施した。 ・教職員による一斉の安全点検を毎月の安全の日に実施し、危険個所についての修理や改善を迅速に行なった。 ・夏休みに教職員に対してHANAモデルと不審者対応の実地訓練を実施した。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を11月・1月に実施予定 ・性教育、薬物乱用防止教室を3学期に実施予定 ・不登校の生徒が別室に登校できる場所「My Place」の効果的な運用のためのルール作り ・心の悩みを抱える生徒への対応は、保健室と学級担任、学年、SCと連携しながら解決に努める。 ・夏休みの実地訓練をもとに、「もしも」に備えて、教職員の危機管理に対する意識の向上や危機管理体制の確認を行う。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室利用状況 ・学校評価アンケート
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>引き続き、不登校生徒への粘り強い取組と支援をお願いする。</p>

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室利用状況(8月～1月) <p>【外科的内容】 213件</p> <p>1年生 66件 2年生 82件 3年生 55件</p> <p>【内科的内容】 292件</p> <p>1年生 97件 2年生 115件 3年生 80件</p> <p>【その他】 402件</p> <p>1年生 29件 2年生 108件 3年生 265件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート (後期：生徒) <p>⑧ 部活動に意欲的に参加し、充実した活動をしている。</p> <p>そう思う…46% 大体そう思う…33% あまりそう思わない…10% そう思わない…11%</p>
--

・学校評価アンケート（後期：保護者）

⑧ 学校は、部活動を熱心に指導している。

そう思う…22% 大体そう思う…56% あまりそう思わない…10% そう思わない…2%
わからない…10%

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・保健室の来室状況は、1日あたりに換算すると、外科的・内科的内容・その他のすべてにおいて前期よりも増えている。外科的内容は約1.3倍、内科的内容は約1.2倍、その他は1.5倍である。特に、その他について、2・3生の増加が著しい。3年生については、前期に引き続き女子の心理的要因によるものが多くを占めていて、同じ生徒が繰り返し利用している状況にある。2年生についても、女子生徒について同様の傾向が見られるようになった。
- ・外科的な内容での保健室への来室は、体育の授業や部活動時のケガによるものが多い。救急搬送はなかった。
- ・不登校の生徒が別室に登校できる場所「My Place」は、子ども支援コーディネーターと教職員で全校体制として取り組み、不登校の生徒に一定の成果を上げることができているが、利用生徒の増加に伴い、多様な生徒の個々の事情やニーズに対応することについての課題が生じてきている。
- ・生徒会の取組と連携して、生活習慣の確立に向けた啓発活動に取り組むことができた。
- ・避難訓練を4月に続き、11月・1月に実施、1月は山科消防署と連携しての訓練を実施することができた。
- ・生徒に対してのAEDを使った救命救急の現地訓練の機会を設けることができた。
- ・安全点検を定期的実施し、危険個所についての修理や改善を行った。

分析を踏まえた取組の改善

- ・関係機関と連携した避難訓練、安全学活、教職員向け研修会、HANAモデル研修の計画的な実施
- ・体育の授業や部活動時のケガや事故を未然に防ぐための生徒への指導と安全対策、緊急時の対応の徹底
- ・性教育、非行防止教室、携帯教室、薬物乱用防止教室等の計画的な実施
- ・校舎や施設設備の老築化に伴う修繕箇所や危険個所の把握と計画的な修繕の実施
- ・不登校の生徒が別室に登校できる場所「My Place」の効果的な運用と学力保障のための取組の強化
- ・心の悩みを抱える生徒への対応について、保健室と学級担任、学年、SCとの連携強化
- ・外部スタッフの配置（SC、SSW、総合育成支援員、総合育成支援ボランティア、学びのパートナー、学生ボランティア など）

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

地域や関係機関との連携を図りながら、薬物防止やオーバードーズに関わる講習会や講演会などを実施してほしい。その際、ただ聴くだけではなく意見交換する場面を設けるなど生徒が主体的に考えられるようにした方が良い。

(4) 学校独自の取組

重点目標 「小中一貫教育」～9年間の教育目標と目指す子ども像～

○9年間の教育目標

「次代をたくましく生き抜く力を育てる」

○9年間で目指す子ども像

- ・しっかりとあいさつのできる子ども
- ・意欲的に取り組み、やり切る子ども
- ・自ら学ぶ子ども
- ・自分、人、ものを大切にする子ども
- ・健康、安全に気をつける子ども

具体的な取組

☆学力向上を核とした小中の連携

- ・小中4校の管理職による定期的協議
- ・小中4校の教務主任、小中連携主任による定期的協議
- ・小中4校研究主任による定期的協議
- ・小中4校生徒指導部長、生徒指導主任による定期的協議
- ・小中4校連携による教科指導ならびに道徳の授業を通じた交流、参観、研究協議

(R6～7年度しなやか道徳教育研究指定校)

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学校評価アンケート (生徒)
 - ① 学級での活動や、生徒会本部・各委員会から提案される活動に積極的に取り組んでいる。
 - ② 授業には、やる気の出る雰囲気がある。
 - ③ きちんとあいさつし、場面に合わせたいいねいな言葉づかいができています。
- ・学校評価アンケート (保護者)
 - ① 学校は、生徒会活動や学級活動を通して生徒の自治意識を高める活動を進めている。
 - ② 学校は、熱意をもって教科指導にあたっている。
 - ③ 学校は、生徒に「あいさつ」と「場面に応じた言葉づかい」の指導を行っている。
- ・全国学力・学習状況調査 (生徒質問紙)

将来の夢や目標を持っていますか。

中間評価

各種指標結果

- ・学校評価アンケート (前期：生徒)
 - ④ 学級での活動や、生徒会本部・各委員会から提案される活動に積極的に取り組んでいる。
そう思う…42% 大体そう思う…45% あまりそう思わない…12% そう思わない…1.5%
 - ⑭ 授業には、やる気の出る雰囲気がある。
そう思う…26% 大体そう思う…56% あまりそう思わない…14% そう思わない…3.0%
 - ⑮ きちんとあいさつし、場面に合わせたいいねいな言葉づかいができています。
そう思う…44% 大体そう思う…50% あまりそう思わない…5% そう思わない…1%

・学校評価アンケート（前期：保護者）

- ④ 学校は、生徒会活動や学級活動を通して生徒の自治意識を高める活動を進めている。
 そう思う…25% 大体そう思う…60% あまりそう思わない…4% そう思わない…0.8%
 わからない…11%
- ⑭ 学校は、熱意をもって教科指導にあたっている。
 そう思う…17% 大体そう思う…60% あまりそう思わない…7% そう思わない…0.8%
 わからない…15%
- ⑤ 学校は、生徒に「あいさつ」と「場面に応じた言葉づかい」の指導を行っている。
 そう思う…21% 大体そう思う…63% あまりそう思わない…6% そう思わない…0.0%
 わからない…11%

・全国学力・学習状況調査（生徒質問紙）

- ① 将来の夢や目標を持っていますか。
 「当てはまる」(29.3%) 全国 -6.2 ポイント
- ② 人の役に立てる人間になりたい。
 「当てはまる」(76.8%) 全国 +5.5 ポイント 「どちらかといえば当てはまる」(23.2%)

自己評価

分析（成果と課題）

- ・「学級活動や生徒会活動に積極的に取り組んでいるか」という問いに対して、85%を超える生徒が肯定的に答えていて、年々増加傾向にある。生徒会行事や学校行事を生徒の手で行えていることが伺える。さらに、生徒が主体的に取り組める活動や取組を増やしていく。
- ・3年生で、「将来の夢を持っている」と回答した生徒が昨年よりも10ポイント減り、全国平均を下回った。しかし、「人の役に立てる人間になりたい。」という問いに対して、全員が肯定的な回答をし、全国平均を上回った。肯定的な回答は、総合的な学習の時間等でのキャリア教育の成果であると言えるが、中学校卒業後の進路決定について、不安を感じている生徒や未決定の生徒が否定的な回答をしていると考えられる。
- ・「あいさつ」や「場面に応じた言葉づかい」ができているかという問いについては、9割を超える生徒と約9割の保護者が肯定的な回答をしていて、学校生活の中での生徒の言動にも実感できるものがある。生徒会の「あいさつ運動」の取組がもたらした成果も大きい。
- ・小中連携の取組として、文化図書委員による絵本の読み聞かせ（5月）、教職員の合同研修（8月）を実施することができた。
- ・「しなやか道徳教育」の研究報告会（6月26日実施）では、安祥寺中ブロック小中合同で異年齢集団・ダイバート形式の授業を行った。

分析を踏まえた取組の改善

- ・生徒会が新体制に代わり、次期から生徒会本部役員も変更するが、委員会活動や生徒会行事等で生徒が主体的に活動できる場面を増やし、自治意識の向上につなげるとともに、生徒に充実感や達成感を味合わせる。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・学校評価アンケート

学校関係者評価	<p style="text-align: center;">学校関係者による意見・支援策</p> <p>人に教えることに学びがあり成長するので、異年齢のつながりや小中連携の取組は大変意義がある。今後も引き続き、そういった取組に期待する。</p>
---------	--

最終評価

自己評価	<p style="text-align: center;">(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>・学校評価アンケート（後期：生徒）</p> <p>④ 学級での活動や、生徒会本部・各委員会から提案される活動に積極的に取り組んでいる。 そう思う…41% 大体そう思う…48% あまりそう思わない…8% そう思わない…2%</p> <p>⑭ 授業には、やる気の出る雰囲気がある。 そう思う…27% 大体そう思う…54% あまりそう思わない…16% そう思わない…3%</p> <p>⑮ きちんとあいさつし、場面に合わせたいいいな言葉づかいができています。 そう思う…42% 大体そう思う…52% あまりそう思わない…6% そう思わない…0.3%</p> <p>・学校評価アンケート（後期：保護者）</p> <p>④ 学校は、生徒会活動や学級活動を通して生徒の自治意識を高める活動を進めている。 そう思う…25% 大体そう思う…63% あまりそう思わない…4% そう思わない…0% わからない…8%</p> <p>⑭ 学校は、熱意をもって教科指導にあたっている。 そう思う…23% 大体そう思う…65% あまりそう思わない…4% そう思わない…3% わからない…5%</p> <p>⑮ 学校は、生徒に「あいさつ」と「場面に応じた言葉づかい」の指導を行っている。 そう思う…18% 大体そう思う…65% あまりそう思わない…7% そう思わない…0.1% わからない…9%</p> <p style="text-align: center;">分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学級活動や生徒会活動に積極的に取り組んでいるか」という問いに対して9割近い生徒が肯定的に答えていることから、生徒会行事や学校行事を生徒の手で行っていることが伺える。 ・生徒会が新体制に引き継がれ、委員会活動や生徒会行事等に生徒が主体的に活動し、様々な新しい取組も始まっている。 ・保護者の回答で「わからない」と回答している数が前期と比較して、学校の取組が行事等を通して理解を得られるようになってきている。 ・小中連携の取組として、教職員の合同研修や作品交流、小6対象オープンスクールを実施することができた。 ・小中4校の連携的会議を定期的に行うことができた。 ・「しなやか道徳教育」の研究報告会では、安祥寺中ブロック小中合同で異年齢集団・ディベート形式の授業を行った。
------	---

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携の強化と取組の充実 ・小中の授業公開や行事の交流の機会を増やす。 ・生徒会を中心とした小中連携の取組を実施する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>引き続き、小中連携の取組の充実を望む。</p>

(5) 教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <p>働き方改革を推進し、校務や業務の効率化と教育の質の向上を両立する。</p>
<p>具体的な取組</p> <p>◇学校現場の働き方改革を推進への意識を高め、会議の効率化、教科内での連携強化等協働していく中で校務や業務の効率化を図る。</p> <p>◇校務支援員、部活動指導員、外部コーチ、ボランティア等の人材を活用し、超過勤務の削減を推進していく。</p> <p>◇PTA・保護者・地域に働き方改革への理解と協力を得る。</p> <p>◇時間と心のゆとりを教材研究や自己研鑽に生かし、教育の質を向上させる。</p> <p>☆学校を働きがいのある、魅力ある場所にする。</p> <p>◇学校現場の働き方改革を推進への意識を高め、会議の効率化、教科内での連携強化等協働していく中で校務や業務の効率化を図る。</p> <p>◇校務支援員、部活動指導員、外部コーチ、ボランティア等の人材を活用し、超過勤務の削減を推進していく。</p> <p>◇PTA・保護者・地域に働き方改革への理解と協力を得る。</p> <p>◇時間と心のゆとりを教材研究や自己研鑽に生かし、教育の質を向上させる。</p> <p>☆学校を働きがいのある、魅力ある場所にする。</p>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間 ・学校評価アンケート（教職員） <p>① 学校教育目標、重点の達成に向けて職務に取り組んでいる。</p>

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート（前期：教職員） <p>① 学校教育目標、重点の達成に向けて職務に取り組んでいる。</p> <p>そう思う…46% 大体そう思う…48% あまりそう思わない…4% そう思わない…0.0%</p>
--

- ・ 4月～7月までの時間外勤務平均時間 58時間23分
- 1か月当たりの時間外勤務時間が45時間を超える月があった教職員 78%
- 1か月当たりの時間外勤務時間が80時間を超える月があった教職員 36%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ 4月～7月までの時間外勤務平均時間は、昨年度とほぼ同じであるが、1か月当たりの時間外勤務時間が45時間を超える月があった教職員、80時間を超える月があった教職員はそれぞれ増えている。
- ・ 時間外勤務時間は、年度当初の4月が一番多く、そこから少しずつ減っていく傾向にあるが、今年度は6月に実施した研究報告会のがあった影響で、5月の時間外勤務が一番多かった。7月は、夏季休業に入るので減少すべきところではあるが、昨年度と同様に休日の公式戦や学期末懇談会の影響で減少しなかった。
- ・ 昨年度から、留守番電話の設定をこれまでの18：30から18：00に変えたが、その時間に設定することが難しく、その後に保護者に連絡せざるをえない状況が続いている。
- ・ 昨年度後半、働き方改革に対する教職員の意識にも変化が見られ、退勤時間も徐々に早くなってきていたが、今年度当初から時間外勤務をする教職員が増えてきている。職員室での勤務時間を意識する雰囲気や再度高める必要がある。
- ・ 時間外勤務時間が多い理由として、校務分掌や業務の偏りが原因となっていることもあるが、教職員の経験年数や個人の意識によることも大きいと感じる。
- ・ 校務支援員等の学校配置スタッフを有効に活用することができた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 教職員の働き方改革推進への意識を高め、会議の効率化や教科内の連携強化を行う。
- ・ 校務支援員やボランティア等の人材を活用し、超過勤務の削減を図る。
- ・ 時間的ゆとりを、教材研究や自己研鑽に生かし、教育の質を向上させる。
- ・ 保護者・地域に働き方改革への理解と協力を得て、休日や時間外の勤務が少なくなるように業務を調整する。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・ 時間外勤務時間
 - ・ 学校評価アンケート（教職員）
- ① 学校教育目標、重点の達成に向けて職務に取り組んでいる。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

「ワークライフバランス」とは何か、早く退勤して勤務時間を減らすだけでは意味がなく、「やりがい」とのバランスを考えていかなければならない。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート (後期: 教職員) <ul style="list-style-type: none"> ① 学校教育目標、重点の達成に向けて職務に取り組んでいる。 そう思う…45% 大体そう思う…55% あまりそう思わない…0% そう思わない…0% 8月～1月までの時間外勤務平均時間 48時間20分 <ul style="list-style-type: none"> 1か月当たりの時間外勤務時間が45時間を超える月があった教職員 75% 1か月当たりの時間外勤務時間が80時間を超える月があった教職員 25%
<p>自己評価</p>	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 8月～1月までの時間外勤務平均時間は、4～7月と比較すると約10時間減少、1か月当たりの時間外勤務時間が45時間を超える月があった教職員、80時間を超える月があった教職員ともに減っている。 8月～1月までの時間外勤務平均時間は、昨年度より約6時間増えている。1か月当たりの時間外勤務時間が80時間を超える月があった教職員は減ったが、その分、45時間を超える月があった教職員は増えている。 昨年度から、留守番電話の設定をこれまでの18:30から18:00に変えたが、その時間に設定することが難しく、その後に保護者に連絡せざるをえない状況が続いている。 退勤時間が早い教職員についても、持ち帰りで仕事をしている事実も否めない。 時間外勤務時間が多い理由として、校務分掌や業務の偏りが原因となっていることもあるが、教職員の経験年数や個人の意識によることも大きいと感じる。学校組織としての業務の精選や効率化が必要であると同時に教職員個人の意識や働き方を変えていくことも重要である。 校務支援員等の学校配置スタッフを有効に活用することができた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 校務や行事の精選、会議の削減や効率化を図る。 教職員の働き方改革推進への意識を高め、会議の効率化や教科内の連携強化を行う。 校務支援員やボランティア等の人材を活用し、超過勤務の削減を図る。 時間的ゆとりを、教材研究や自己研鑽に生かし、教育の質を向上させる。 保護者・地域に働き方改革への理解と協力を得て、休日や時間外の勤務が少なくなるように業務を調整する。
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>部活動が地域移行について、課題がいくつか挙げられるが、教職員の働き方改革が進むように、課題解決に向けての対応を検討する必要がある。</p>

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標

問題行動やいじめ未然防止に努め、ルールや法を守り、正義を重んずる規範意識を育成する。

具体的な取組

「学校いじめの防止等基本方針」に同じ

(取組結果を検証する) 各種指標

- ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。
- ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。
- ③ いじめに係る既存の「学校評価：生徒アンケート項目」を活用
 - ・先生たちは、私の小さな変化にも気づいてくれる。
 - ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
 - ・学校に「いじめ対策委員会」があることを知っている。
- ④ 生徒・保護者の訴え（アンケート結果を含む）や相談内容を共有している。
- ⑤ 保護者や学校運営評議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。

中間評価

各種指標結果

- ① 学校評価アンケート（前期：教職員）
 - ア) 生徒の変化を見取り、丁寧に接することができている。
そう思う…43% 大体そう思う…52% あまりそう思わない…4% そう思わない…0%
 - イ) 「いじめはどんなことがあっても許されない」ことを指導している。
そう思う…83% 大体そう思う…17% あまりそう思わない…0% そう思わない…0%
 - ② 全校集会で、全校生徒に対して対面で紹介した。
 - ③ 学校評価アンケート（前期：生徒）
 - ア) 先生たちは、私の小さな変化にも気づいてくれる。
そう思う…32% 大体そう思う…52% あまりそう思わない…13% そう思わない…1.4%
 - イ) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
そう思う…84% 大体そう思う…14% あまりそう思わない…1.5% そう思わない…0.7%
 - ウ) 学校に「いじめ対策委員会」があることを知っている。
そう思う…72% 大体そう思う…10% あまりそう思わない…6% そう思わない…11%
- 学校評価アンケート（前期：保護者）
- ア) 学校は、「どんなことがあってもいじめは許されない」ことを指導している。
そう思う…21% 大体そう思う…49% あまりそう思わない…6% そう思わない…1.6%
わからない…22%
 - イ) 学校は、いじめ対策の取組（いじめ対策委員会の設置、学校いじめ防止等基本方針のホームページ掲載）を行っている。
そう思う…14% 大体そう思う…49% あまりそう思わない…6% そう思わない…1.6%
わからない…29%

・「いじめ」についてのアンケート

「友だちからされたことで嫌な思いをしたことがある」という質問に対して、「ある」と答えた生徒は26名、そのうち「今はどうですか」という質問に対して「ときどきある」「よくある」と答えた生徒は10名であった。アンケート結果や教育相談等で得た情報をもとに、学年や生徒指導・補導の係で共有し、迅速に対応、解決に至っている。

- ④ 毎日の打ち合わせで学年、生活補導係、管理職で情報内容の共有を図っているが、定例の補導部会、生徒指導委員会、職員会議等でも、情報共有をしている。教育相談（6月実施）の内容についても情報共有を行っている。
- ⑤ 「学校いじめ防止等基本方針」についてはHPに掲載している。学校運営協議会（7月）にて説明・周知した。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。という質問に対して、否定的な回答をしている生徒はわずかである。しかし、嫌がらせやいじめにつながる指導案件はあるので、相手の立場を考えた行動が大切であるという指導は継続的に必要である。
- ・「先生たちは、私の小さな変化でも気づいてくれる」という問いに対して、8割を超える生徒が肯定的な回答をしているが、今年の同時期よりもわずかながら増加している。しかし、1割を超える生徒がそう感じていないという結果となっているので、日常的なきめの細かい観察や個々の生徒に対しての声掛けが必要であることを教職員が再認識して生徒と関わっていく。
- ・個々の生徒に関わる教職員同士（学級担任、教科担任、学年教員、委員会活動担当教員、部活動顧問等）で連携を深め情報を共有することで、いじめの早期発見・迅速な対応につなげる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・「いじめ対策委員会」について、機会があるごとに紹介をする。
- ・引き続き、日常の観察と情報収集に努め、情報共有を密にし、組織として事案に対応できる学校体制の強化を目指す。
- ・生徒や保護者との信頼関係の構築に努める。
- ・12月に人権学習を予定しているが、道徳や各教科の授業、学級活動等のあらゆる場面で人権の大切さを感じられるような教育活動を行う。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・学校評価アンケート
- ・「いじめ」についてのアンケート

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

加害者がいじめをしているという認識がないのが問題である。いじめや人権侵害についての個々の感度を上げ、相手の気持ちを想像して行動することができるように、学校教育活動の様々な場面での指導が重要である。

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

① 学校評価アンケート（後期：教職員）

ア) 生徒の変化を見取り、丁寧に接することができている。

そう思う…32% 大体そう思う…59% あまりそう思わない…9% そう思わない…0%

イ) 「いじめはどんなことがあっても許されない」ことを指導している。

そう思う…86% 大体そう思う…14% あまりそう思わない…0% そう思わない…0%

② 定例で開いている会議の連絡をあえて全校放送で行い、全校生徒に対してアピールした。

③ 学校評価アンケート（後期：生徒）

ア) 先生たちは、私の小さな変化にも気づいてくれる。

そう思う…32% 大体そう思う…50% あまりそう思わない…15% そう思わない…4%

イ) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。

そう思う…87% 大体そう思う…11% あまりそう思わない…0% そう思わない…1%

ウ) 学校に「いじめ対策委員会」があることを知っている。

そう思う…76% 大体そう思う…13% あまりそう思わない…5% そう思わない…7%

学校評価アンケート（後期：保護者）

ア) 学校は、「どんなことがあってもいじめは許されない」ことを指導している。

そう思う…28% 大体そう思う…52% あまりそう思わない…8% そう思わない…3%
わからない…9%

イ) 学校は、いじめ対策の取組（いじめ対策委員会の設置、学校いじめ防止等基本方針のホームページ掲載）を行っている。

そう思う…16% 大体そう思う…53% あまりそう思わない…8% そう思わない…2%
わからない…21%

・「いじめ」についてのアンケート

「友だちからされたことで嫌な思いをしたことがある」という質問に対して、「ある」と答えた生徒は24名、そのうち「今はどうですか」という質問に対して「ときどきある」「よくある」と答えた生徒は20名であった。アンケート結果や教育相談等で得た情報をもとに、学年や生徒指導・補導の係で共有し、迅速に対応、解決に至っている。

④ 毎日の打ち合わせで学年、生活補導係、管理職で情報内容の共有を図っているが、定例の補導部会、生徒指導委員会、いじめ対策委員会、職員会議等でも、情報共有をしている。教育相談（10月実施）の内容についても情報共有を行った。

⑤ 「学校いじめ防止等基本方針」についてはHPに掲載している。学校運営協議会（7月・10月・2月）にて説明・周知した。

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。という質問に対して、前期と変わらず否定的な回答をしている生徒はごくわずかある。しかし、「いじめ」アンケートでいじめがあると答えた生徒の数は、前期と比べて減少することはなく横ばいで1年生に多い。嫌がらせやいじめにつながる指導案件もあるので、相手の立場を考えた行動が大切であるという指導は継続的に必要である。 ・人権学習や道徳、各教科の授業、学級活動等のあらゆる場面で人権の大切さを感じられるような教育活動を行うことができた。 ・「先生たちは、私の小さな変化でも気づいてくれる」という問いに対して、約8割の生徒が肯定的な回答をしているが、逆にそう感じていないという生徒が前期と比較してわずかではあるが増えている。日常的なきめの細かい観察や個々の生徒に対しての声掛けが必要である。 ・「いじめ対策委員会」の設置についての生徒および保護者への理解度は、前期と比較して上がっている。 ・いじめやいじめにつながる生徒指導の事案について、管理職や学年、生徒指導・補導の係で情報を共有しながら、解決に向けて迅速に対応することができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ対策委員会」について、機会があるごとに紹介をする。 ・生徒や保護者との信頼関係の構築に努める。 ・日常の生徒の「変化」に気づけるよう、観察と情報収集に努め、教職員同士の情報共有を密にし、組織的な対応が迅速にできるよう、いじめ対策委員会の有効な活用等、組織体制を整える。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめられた側が相談しやすい信頼関係を日頃から築いておくことが大切である。 ・生徒から訴えがあったら、事情確認、情報収集、情報共有をしっかりと行う。